

39. 20200320 花を咲かせないように働くホルモンがある

「^か花き研究所」と香川大学の共同研究チームは、花を咲かせないように働くホルモンをキクから発見した。

キクは日照時間に応じて花を咲かせるホルモンと花を咲かせないように働くホルモンの量を葉で調整して開花時期を決めていることがわかった。明かりの下で育てる電照ギクの省エネ栽培などに応用できるという。米科学アカデミー紀要(電子版)に1日発表した。

キクの多くの品種は日照時間が短くなる秋に開花する。研究グループは花を咲かせるホルモンの遺伝子を見つけていたが、夜中に光を照らして開花時期を遅らせる電照ギク栽培では、このホルモンの量は十分あるのに花が咲かない。このため、開花を抑えるホルモンがあると考えた。

夜に光を当てて花が咲かないようにしたキクと、光を照射しなかったキクの遺伝子を比較。夜に光を照射したキクで活発に働いている遺伝子の中から、開花を抑えるホルモンの遺伝子を突き止めた。この遺伝子の働きを高めたキクを作ったところ、普通は開花する条件でも、花が咲かないことを確かめた。開花ホルモンと開花抑制ホルモンのバランスで開花時期を決めている可能性のある植物としては、キクのほか、イチゴやタバコなどがあるという。

(2013年10月1日日経夕刊より)

花き研究所について

花き研究所は国によって設立されたわが国唯一の花の研究機関です。(研究プロジェクトは3つを推進)

2001年独立行政法人農業技術研究機構の研究所として新設された。(茨城県つくば市所在)

1. 生育開花機構の解明によるキク等主要花きの効率的計画生産技術の開発
2. 分子生物学的手法による新形質花きの創出
3. 農畜産物の品質評価・保持・向上技術の開発

参考

■ ノギクの仲間(キク科シオン属) ■

ノギクの仲間を同定することは困難である。特にシオン属においては悩まされるのであるが、系統づけて覚えれば 少しは同定の手助けとなります。(冠毛の有無、葉の光沢、葉の形、花時の根生葉など)

